ですが二度とも、見んごと、落第しましたんで……尤無理かも知れないんですが、矢張勉強が足りないのです。今度は何でも及第したいんですが、またやり損ふかも知れません。』

嗚呼、こも亦、眞の車夫にてはあらぬなり。身の述懷を談りながら韋駄天の如く驅け過ぎて早くも、定めの場所に來りぬ。さればとて約束の金に少し許りを添へて、渡せば、數度禮を述べまた楫棒取り上げて、神田の方へと歸り行きぬ。吾は無量の感に打たれて、其後影を見送りながら、暫は、其場に衝立ちつ。（未完）

新年の御歌

雪中竹

御製

この上にびくへふりそふ雪ならむ
たかむら高くなりまさりつゝ

皇后宮御歌

よの程のあらしはたえてくれ竹の
雪しつかにもあくるそらかな

東宮御歌

ふりつもるまかきの竹のしら雪に
世のさむけさを思ひこそやれ

東宮妃御歌

かきりなき君かちとせもこもるらむ
竹のはやまにふれるはつ雪

子らの遊び

東　くめ

浪よりあくる　朝日かげ
魚やつらむと　蜑の子が、
浦の苫屋を　起き出て、
友よびかはし　急ぐなり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

朝露わけて　里の子が、
近き外山の　木隠に、
さゝ栗拾ふ　聲すなり、
茸もありと　叫びつゝ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

浦和の磯に　打むれて、
あさり蛤　拾ふ子は、
日の暮れ行くも　しら波の、
歸るを忘れ　遊ぶなり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

夕日照りそう　岡のへに、
落葉かく子の　一むれは、
おのが家路に　吹く風の、
ちり〳〵にこそ　急ぐなれ。

雪　仝　人

まだ來ぬ春を　忍べとや、
しのぶが岡の　雪のあさ、
咲く事しらぬ　常盤木も、
匂はぬ枝なき　ひつの花。

春山　仝　人

ほの〳〵と明け行く今朝の中空に
姿ふりせぬ雪の不二の嶺

說林

兒童の道德的訓練（一）

兒童の義務の意識は其初め兩親の權勢の下に生活する經驗より生ずるものにて其惡事をなすを嫌ふは罰をおそるゝ利己的感情より來るものなり生後僅かに五六ヶ